

アンデス文明の形成過程をめぐって

キーワード[アンデス文明, 神殿, 交流, フロンティア]

准教授 山本 睦



左: 2006年より発掘調査を実施している
インガタンボ遺跡
の遠景



右: インガタンボ遺跡
での発掘風景



左: 2023年の
調査メンバー

内容:

ナスカやマチュピチュで知られるアンデス文明とは南米に栄えた様々な社会の総体です。私は、そのなかでも、アンデス文明の基盤が築かれたとされる形成期(紀元前3000年～紀元前後)とよばれる時期を中心に、社会の複雑化と地域間交流の動態的相互関係を多角的かつ実証的に究明することを目指して、研究をすすめています。

形成期の最大の特徴は、公共祭祀建造物である神殿を中心に社会的統合がなされたという点です。そこで、われわれは、建設活動をはじめ、神殿でとりおこなわれた様々な活動を明らかにするために、ペルー最北部の神殿遺跡で発掘調査を実施してきました。この地域は、中央アンデス(ペルー)と北部アンデス(エクアドル)という両文化圏のフロンティアや境界とみされてきた地域です。

これまでの成果として、ペルー最北部がアンデス文明の中心地の影響を受けて成立した周縁であり、文明形成に直接的な役割をはたさない、とする従来の説に再検討をせまることができつつあります。

現在は、建築や土器だけでなく、人骨や動物骨などの理化学的分析を組みこんで、当該地域における交流の実態をより具体的に解明することを目指しています。また、考古学調査から切り離せない問題である文化遺産についても研究の対象としています。

アピールポイント:

古代アンデス文明の歴史過程を動的にとらえるだけでなく、現代社会とは異なる社会をみることで、異文化(あるいはそれを通じて自己)を理解する視点や手がかりをえることを目指します。

